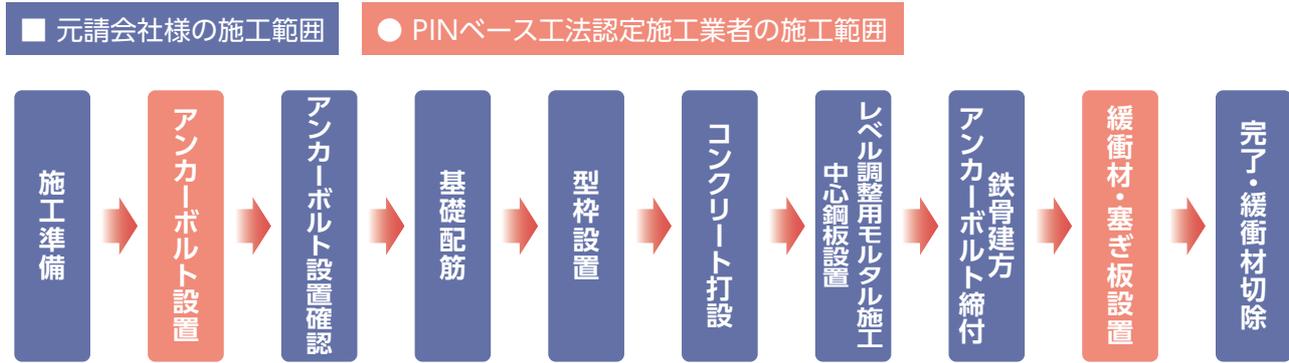


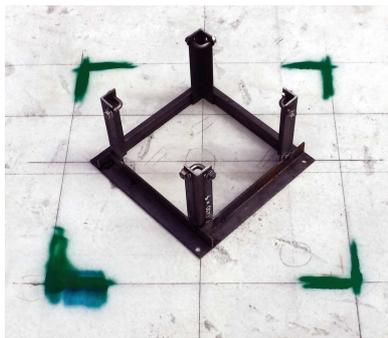
施工範囲(工事区分と作業内容)



| 施工内容 | 施工区分 | | 備考 |
|------------------------|------|--------|--|
| | 元請様 | 認定施工業者 | |
| 捨てコンクリート打設 | ■ | | 据付部厚さは90mm以上、平滑に仕上げてください |
| 柱芯墨出し | ■ | | 施工前日までに柱芯の墨出しをしてください |
| 部品受け取り | ■ | | アンカーボルト、部材をお受け取りください |
| 位置指示 | ■ | | 設置当日、立会い指示願います |
| 設置レベル指示 | ■ | | 設置当日、立会い指示願います |
| アンカーボルト設置 | | ● | PINベース工法認定施工業者が設置 |
| 設置後立会い検査 | ■ | ● | 立会い検査後、完了書に捺印願います |
| 基礎配筋・型枠設置 | ■ | | 形板は取り外さないでください 形板の上には乗らないでください ナットを緩めたり、アンカーフレームの切断はしないでください |
| 設置位置・高さ確認 | ■ | | 打設前に必ず設置位置精度の確認をお願いします |
| 基礎コンクリート打設 | ■ | | 形板の上には乗らないでください 基礎柱形部分は柱中心部真上から打設してください バイブレーターを接触させないでください |
| 形板撤去・処分 | ■ | | |
| レベル調整用モルタル施工 中心鋼板設置 | ■ | | 鉄ダンゴは使用できません |
| 鉄骨建方・アンカーボルト締付 | ■ | | 建入れ直しワイヤーをアンカーボルトに取らないでください |
| 緩衝材・塞ぎ板設置 | | ● | PINベース工法認定施工業者が設置 |
| 完了時立会い検査 | ■ | ● | 施工チェックシートをお受け取りください |
| 緩衝材切除 | ■ | | スラブ天端から突出した緩衝材は必要に応じて切除が可能です |

- 警告**
- ・アンカーボルトおよびナットは加熱・溶接・加工は絶対行わないでください。所定の性能が発揮できなくなります。
 - ・アンカーボルト設置工事及び緩衝材・塞ぎ板の設置はPINベース工法認定施工業者が実施するよう義務付けられています。
 - ・建方時、建入れ直し用のワイヤーをアンカーボルトに取らないでください。
 - ・形板の上には乗らないようにしてください。

施工手順



架台設置



アンカーボルト設置完了



配筋



基礎コンクリート打設



レベル調整用モルタル及び中心鋼板設置



建方



アンカーボルト締付



塞ぎ板設置

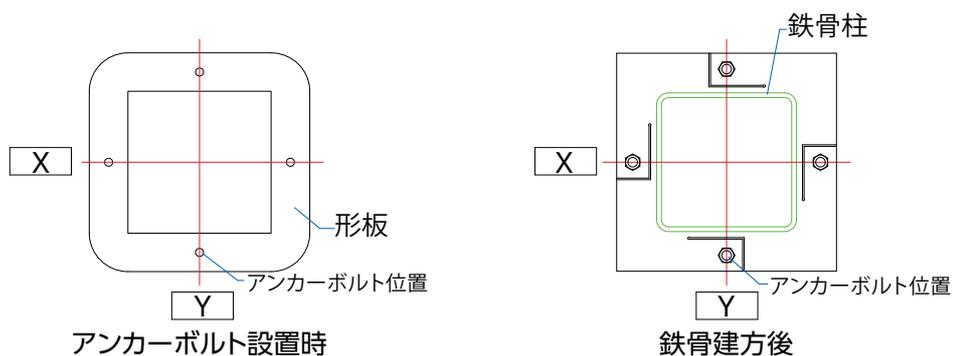


緩衝材設置・施工完了
※写真の緩衝材設置方法は一例です。

注意 上記は標準的な施工例です。現場の状況により、上記以外の施工方法となる場合があります。

PBタイプ(角形鋼管柱用)のアンカーボルト設置時の注意点

PINベース工法は製品の特性上、ボルトの配置がベースプレートの四隅では無く、各辺中央に配置されています。アンカーボルト設置工事時は、架台向きに注意して施工してください。



建方用レベル調整用モルタルの施工について

PINベース工法では、ベースプレート下面の柱形中心部分に平滑かつ水平に仕上げたレベル調整用モルタルを施工し、その上面に鋼板を設置します。

| 各部の名称 | 寸法 | 備考 |
|----------------------|------------------------------|--------------------------|
| 中心鋼板及び レベル調整用モルタル | 厚さ (tm) : 50mm | 許容範囲 30mm ≤ tm ≤ 80mm |
| | 中心鋼板外径 (Bm) (7ページ部材寸法表参照) | — |
| | モルタル外径 (Um) (7ページ部材寸法表参照) | 許容範囲 -0 ~ +40mm |



警告

PINベース工法では、鉄骨造の露出柱脚で用いる一般的な後詰めモルタルは注入しません。その為、中心鋼板及びレベル調整用モルタルの施工に際しては適切な使用材料・手順で行ってください。※参考動画をご用意しています。カタログ末尾のURLから閲覧できます。



PINベース®パッド

PINベース工法では、レベル調整用モルタル用の材料として、専用パッド材「PINベース®パッド」(圧縮強度45以上)をご用意しています。

特にご指定が無い限り現場に納品いたします。

PINベース®パッド材を用いた施工方法については、同梱される別紙(レベル調整用モルタルの施工方法)をご参照の上、適切な施工を行ってください。



警告

市販のパッド材をご使用する場合、基礎コンクリート同等の強度以上の材料をご使用ください。強度が足りないと所定の性能が発揮されません。

緩衝材・塞ぎ板について

- PINベース工法では、柱及びベースプレートを介してコンクリートスラブに応力を伝達させないため、緩衝材を設置します。
- コンクリートの流入を防ぐため塞ぎ板を設置します。

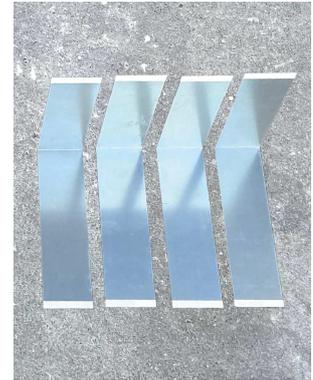
注意 施工はPINベース工法の認定施工業者が行います。



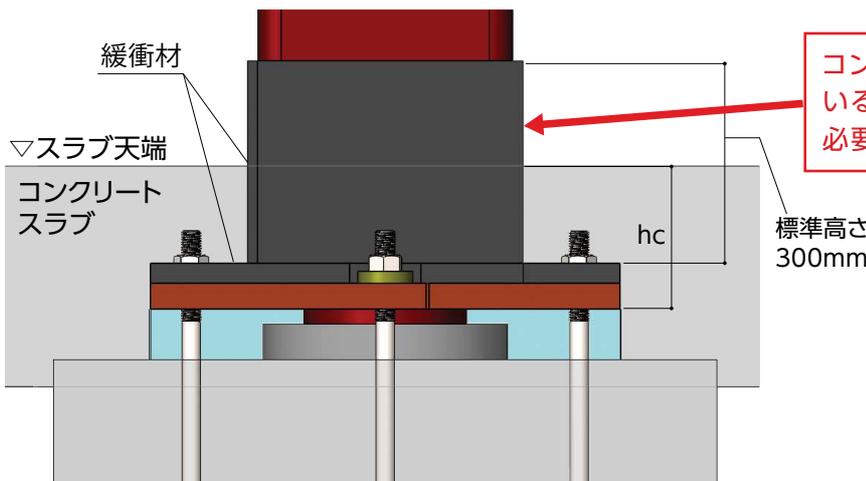
緩衝材、塞ぎ板施工後



緩衝材



塞ぎ板



コンクリートスラブ打設後、突出している緩衝材は切除が可能です。必要に応じて処理してください。

- 緩衝材の標準高さ:300mm 標準厚さ:ベースプレート上部20mm、柱側面部10mm
- コンクリートスラブ打設後、スラブ天端から突出した緩衝材は必要に応じて切除が可能です。

注意 hc寸法が300mmを超える場合はセンクシアへお問い合わせください。

施工チェックシートについて

PINベース工法は、日本建築センターの評定を取得した工法であり、その施工はPINベース工法認定施工業者が行うよう義務づけられています。

PINベース工法認定施工業者は、施工チェックシートで施工時チェックを行い、工事完了後はセンクシアへ施工管理チェックシートの提出をしてください。

| 工 程 名 | 検査項目 | 検査状況 | | 検査日 | 検査者 |
|--------------|---------------|------|-----|-----|-----|
| | | 検査済 | 未検査 | | |
| 基礎部分、柱設置後の確認 | 基礎部分のコンクリート打設 | | | | |
| | 柱設置後のコンクリート打設 | | | | |
| スラブ部分 | スラブ天端からの突出 | | | | |
| | スラブ天端からの突出 | | | | |
| ピンベース工法 | ピンベース工法の施工 | | | | |
| | ピンベース工法の施工 | | | | |
| その他 | その他 | | | | |
| | その他 | | | | |

① コンクリート打設後の検査は、日本建築センターの評定、ピンベース工法の認定、ピンベース工法の認定に基づき、その後の確認作業はPINベース認定施工業者が行うものと見做す。② 本工法は、日本建築センターの評定を取得した工法であり、その施工はPINベース工法認定施工業者が行うよう義務づけられています。③ 本工法は、日本建築センターの評定を取得した工法であり、その施工はPINベース工法認定施工業者が行うよう義務づけられています。